

1. 調査報告概要表

作成日 平成 22年 4月11日

【評価実施概要】

事業所番号	1071000168
法人名	株式会社ブッセ
事業所名	グループホーム ひまわり
所在地	群馬県富岡市宇田509 (電話) 0274-63-8820

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町 1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成22年 1月 28日

【情報提供票より】(22年1月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 6 月 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	利用定員数計 9 人 常勤4人, 非常勤 人, 常勤換算 7.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	200 円
	夕食	300 円	おやつ	円
または1日当たり				

(4) 利用者の概要(1月20日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2	0名		
要介護3	5名	要介護4	0名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	73歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西毛病院・公立富岡総合病院・公立七日市病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理念に「利用者本位の生活支援」「知識と技術の向上」「住み慣れた地域での生活の維持」を掲げ、利用者の希望に応えられるような取り組みの努力をしている。また、利用者各自の「今の力」を継続維持できるように、介護計画に基づき、生活の中にリハビリを取り入れ工夫している。前回の改善課題に対して管理者が中心となり職員と一緒に取り組んでおり、努力の跡が伺えた。避難訓練には区長をはじめ地域の民生委員も参加しており、災害時の連絡網も作成されている。理念にある「地域での生活の維持」の土壌は出来ている。ホーム全体のサービスの質を今後も見守りたいホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では地域密着型としての理念・地域との付き合い・評価の意義の理解と活用・運営推進会議を活かした取り組み・災害対策・重度化や終末期に向けた方針の共有が改善課題としてあげられたが、そのうちの重度化や終末期に向けた方針の共有以外は管理者と職員が話し合い改善されている。重度化や終末期に向けた方針の共有は入居時に説明はされているが文書化までには至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、前回の評価結果を受けて全職員で取り組み管理者がまとめ、作成したものである。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議には家族代表者・区長・民生委員等の参加があり、定期的開催されている。ホームからは活動状況・外部評価結果報告・災害対策等について意見交換が行われている。その結果、区長・民生委員の避難訓練の立会い参加が実現された。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族等の意見・要望・苦情等は気軽に話してもらえるよう、日頃から信頼関係を築く努力をしている。「ひまわり新聞」を発行し日ごろの生活ぶりを知らせている。利用料を原則現金支払にして、家族がホームに来所出来る機会と捉えている。遠方の家族には電話や手紙で日常の生活を報告し、意見を求めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>前回の改善課題という結果を受けて、職員全員で取り組んだ結果、区長・民生委員から声をかけてもらえるようになり、地元の祭りに参加できた。区長・民生委員がホームの避難訓練に参加してくれるようになった。「ひまわり新聞」を地域に回覧してもらい、地域住民から見学の申し出があった等の結果が表れている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の評価結果を受けて地域密着型サービスのあり方を端的に示した理念を職員全員で話し合い、事業所独自の理念として作りあげた。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送り時や月に1回の会議の時、また、それぞれの課題を理念に照らし合わせたりしながら、理念を確認し、実践に向けて取り組んでいる。		
	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	前回の改善課題という結果を受けて、地域とお付き合いすることに職員全員で取り組んだ。結果は区長・民生委員から声をかけてもらえるようになり、地元の祭りに参加できたり、区長・民生委員がホームの避難訓練に参加してくれるようになった。「ひまわり新聞」を地域に回覧してもらい、クリスマス会の参加を呼びかけた。地域住民からは施設見学の申し出があった。		
たものである					
	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は全職員で取り組み管理者がまとめ、作成したものである。外部評価の結果を踏まえて話し合いを行い、改善に取り組んでいる。		
	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には家族代表者・市の担当者・区長・民生委員の参加があり、定期的で開催している。家族代表には電話で開催日を伝え、家族代表として交替で出席してもらっている。ホームからは活動状況・外部評価結果報告・災害対策等について意見交換が行われている。その結果、区長から秋祭りに誘ってもらったり、区長・民生委員の避難訓練の立会いが実現された。会議は手作りおやつ等でホームの日常を知ってもらう機会にもなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の地域ケア会議に出席したり、書類を届けに窓口に向いたり、運営推進会議に合わせた防災訓練や納涼祭に参加してもらう等で、市の担当者との交流の機会を持つようになっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「ひまわり新聞」を発行し日ごろの生活ぶりを知らせている。利用料を原則現金支払にして家族がホームに来所出来る機会と捉えている。遠方の家族には電話や手紙で日常の生活を報告している。家族来訪時にはケアプラン、健康状態や暮らしぶりの説明や報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見や苦情は気軽に話してもらえるよう、日頃から信頼関係を築く努力をしている。意見箱を設置している。出された意見・要望等については、職員間で検討してサービスに結び付けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	系列事業所との異動があるが、異動の場合は利用者・家族に説明している。ハローワークから1名の採用があったが、日勤で1ヶ月先輩職員と一緒に業務に付いて教え、その後夜勤で3回一緒に業務をこなし、管理者が見極め、独り立ちできる指導をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間で支援に対する話し合いは行っているが、外部研修に参加する機会が少ない。	○	管理者・職員がそれぞれの技術に応じた外部研修に参加することで、ホーム全体のサービスの質が向上するので、全職員の外部研修への参加を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、見学研修・レベルアップ研修に参加している。今後は地域の研修会や勉強会に出席したいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に見学をしてもらい、ホームの様子や雰囲気を感じていただき利用に繋げている。施設や病院等からの入居希望の場合はホームから出向いて面接している。本人・家族の希望に添って、家族の宿泊にも応じ、早く馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	手作りおやつ「焼きもち」「おやき」の作り方を教わったり、支援する側される側という垣根を作らず、利用者の話に耳を傾けている。利用者から『助かるよ』という言葉をかけてもらいながら、共に過ごし支えあう関係を大切にしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中の利用者の言動や家族からの情報等から、意向や希望を把握するように努めている。利用者の希望(自宅で暮らしたい)に応えるような場面作りに工夫を凝らしている。新規の入居者には、家族の希望があれば、宿泊にも応じている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネジャーは週に2回来所し、利用者の課題や本人・家族の意向を踏まえて、ミーティングやカンファレンスによる職員の意見を反映した、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアマネジャーは緩やかな利用者の変化を見落とさないように、毎月あるいは短期間のモニタリングを基に、カンファレンスを行い、3ヶ月に1回の見直しと、随時の見直しを行って、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、入院中の洗濯や受診時の送迎、日用品等の買い物、訪問理美容等の柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。入居時に本人・家族の承諾を得て協力医の支援を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針については、入居時とその都度に家族に説明を行っているが、ホームとしての指針の明文化はまだされていない。	○	事業所としての重度化や終末期に向けた基本的な方針について明文化し、家族等に説明して共通の認識を持つことが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	前回調査員からお風呂の窓ガラスがプライバシーを損ねるという意見を受けて、窓ガラスにシートを張り、外から入浴時の姿が見えないように改善した。職員とは入居時に守秘義務についての誓約書を交わしている。個別の記録物は事務所に適切に保管されている。利用者へは「・・・さん」と呼んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、過ごしたいようにしてもらっている。食事時間をずらすことも出来る。15時半からは体操やビーチボール投げでリハビリを行い、生きる意欲につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを考慮し職員が献立を作成している。利用者と職員は野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、食器洗い等の一連の作業を一緒に行い、手作りおやつ《お饅頭・お好み焼き・たこ焼き》で食事が楽しいものになるよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は週に3回の入浴を支援しているが、希望により入浴日以外でも支援が可能となっていたり、日帰り温泉を利用する支援がある。その他に清拭や利用者のその時の気分によりシャワー浴の支援がある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者各自の生活歴や好みにより、モップかけ・食器洗い・洗濯物たたみ・花壇の水遣り・他の利用者の介助の役割を持ち、カラオケやドライブ・食事会・職員が踊りを披露したり・バーベキュー・まゆ玉作り・花見・紅葉狩り・クリスマス会・買物・日帰り温泉等の楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ・買い物に出かけ気分転換やストレス発散の機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に2段の階段があり、簡易柵が設置されているが、職員は鍵をかけることの弊害を理解して玄関は施錠されていない。デイルームからベランダに出られるようになっているが、鍵はかかっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年に1回、昼を想定した避難訓練を行っている。災害時連絡網が作成され、避難訓練には区長・民生委員が立ち会っている。	○	いざという時に確実に避難誘導が出来るよう、年に2回は昼夜設定の避難訓練を実施してほしい。また、地域住民の協力が得られるように、区長・民生委員に声かけの依頼をお願いしてみたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量はチェックし記録をしている。水分摂取については記録がない。	○	脱水予防等の観点から、水分摂取の記録を残すことの大切さを認識して、今後は食事の摂取量と同様に水分の摂取量の記録も徹底することを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	代表者の居宅を改装してホームとして使用している。共有空間は広くはないが、ベランダに出られたり、外の景色が居ながらにして見えることで圧迫感はない。テーブルと椅子、テレビ等があり、日ごろの写真が飾られ、『ひまわり新聞』が掲げられて、利用者が思い思いに過ごせるような配慮が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた化粧品・ラジオ・衣装ケース・ベッド・ポスター・家族の写真が飾っており、利用者それぞれの個性ある居室作りがされている。		